
東方宵闇邸

CROW

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方宵闇邸

【Zコード】

N4722BA

【作者名】

CROW

【あらすじ】

高校受験の会場へ行く途中にトラックに撥ねられ死んだごく普通の中学生3年生の樹紫苑いづきしょんは謎の青年仁によつて東方の世界へ転生せられた。

第1話

俺は樹紫苑^{いつきしおん}15歳、「ぐく普通の中学生で高校受験の会場に行く途中だつた。

男「君！危ない！」

「え？」

よく見るとトラックが歩道に乗り上げ俺の目の前に来た。そしてあっさりと撥ね飛ばされ地面に叩き付けられた。体中が痛かつた。トラックは電柱柱に激突した。

女性「キャアアア！」

近くでその光景を見ていた女性は俺を見て甲高い悲鳴を上げた。

男「救急車と警察を呼ばないと」

俺に声を掛けた男性が急いで携帯電話を取り出した。

「（ここで終わるのか）」

だんだん近くに居た男性の姿がぼやけて来て痛みも和らぎ始めた。

そして意識を失った。

「此処は？」

目を覚ました場所は病室ではなく真っ白で何も無い広い空間だった。

？「おめでとう、君は幸運だ！」

突然背後から声がした。

「は、いつの間に」

声のする方に振り替えると、白いスーツを着た金髪で青い目の美青年が居た。

？「僕は仁^{じん}」

「で、此処は？何が幸運なんだ？」

意味不明な状況に俺は困惑した。

仁「君は死んだんだよ、そして抽選で選ばれた」

「あのまま死んだのか」

仁「でも君はやり直せる、しかし別の世界だけね」「どこだ」

仁「君がよく知っている「東方の世界」さ種族は上級妖怪だそして能力もある」

「何の能力だ」

仁「秘密さじきに分かるよ、じゃあ行ってらっしゃい」「

「ちょっとまだ聞きたいこと」

そして意識を失った。

目を覚ますと明るい森の中で日本刀を持った一人の若い男性がいた。

男「妖怪だな、死んでもう」

そしていきなり俺の左胸を刺した。え、また死ぬの？

「あれ、血が出ない」

代わりに傷口から黒い霧みたいな物が出た。

「（何だ？「闇を操る程度の能力」「持っている能力を使いこなす程度の能力」ルーミアだな）」

男「何だ真つ暗だ」

「オヤスミー」

男「かはっ」

俺は後頭部を右の拳で殴り気絶させた。

「えっと此処は何処だ」

そして山があつたので登つて行つた。

?「あやや、貴方は何者ですか」

上から声がしたので上を見ると背中に黒い羽根を生やした少女が浮いていた。彼女はどう見ても射命丸文だつた。此処は妖怪の山か。

「誰だ（名前呼んだら不味いな）」

文「貴方は妖怪ですか（妖気が私より多い）」

彼女は俺の前に降りて來た。ヤバい本物だ。

「ただけど君は天狗か」

文「はい、私は射命丸文と言います貴方は」

「俺は樹紫苑」

文「では、またいつか会いましょうか」

そして彼女は羽を開いて飛んで行つた。

「別の場所に行こうか」

そして山を下りて数時間森の中をわまよつていた。

「空気が美味しい」

？「ねえ、食べていいい？」

後ろから声がした。そしてあたりが急に薄暗くなつた。

「？」

振り返ると黒い服を着た金髪の背が俺（一七〇cm）の首元ぐらいうり返すと黒い服を着た金髪の背が俺（一七〇cm）の首元ぐらい

の少女が

両手を広げ首を右に傾け笑つていた。ルーミアか？でもリボンが付いてない。

ル「答えられないなら食べていいんだね」

よく見ると彼女は傷だらけだった。

「おい、その傷は大丈夫か」

ル「え、これは・・・」

彼女はうつむき話し始めた。俺を食うんじゃなかつたのか。

彼女は比較的弱く、自分より強い妖怪に虐められたらしい。

「じゃあ、強くなりたいか？俺も同じ能力だ」

彼女は俺と同じ能力なので鍛えてあげようと思つた。

ル「うん、私強くなりたい！私はルーミア」

「俺は樹紫苑」

そして俺は彼女を強くすることになった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4722ba/>

東方宵闇邸

2012年1月12日22時50分発行